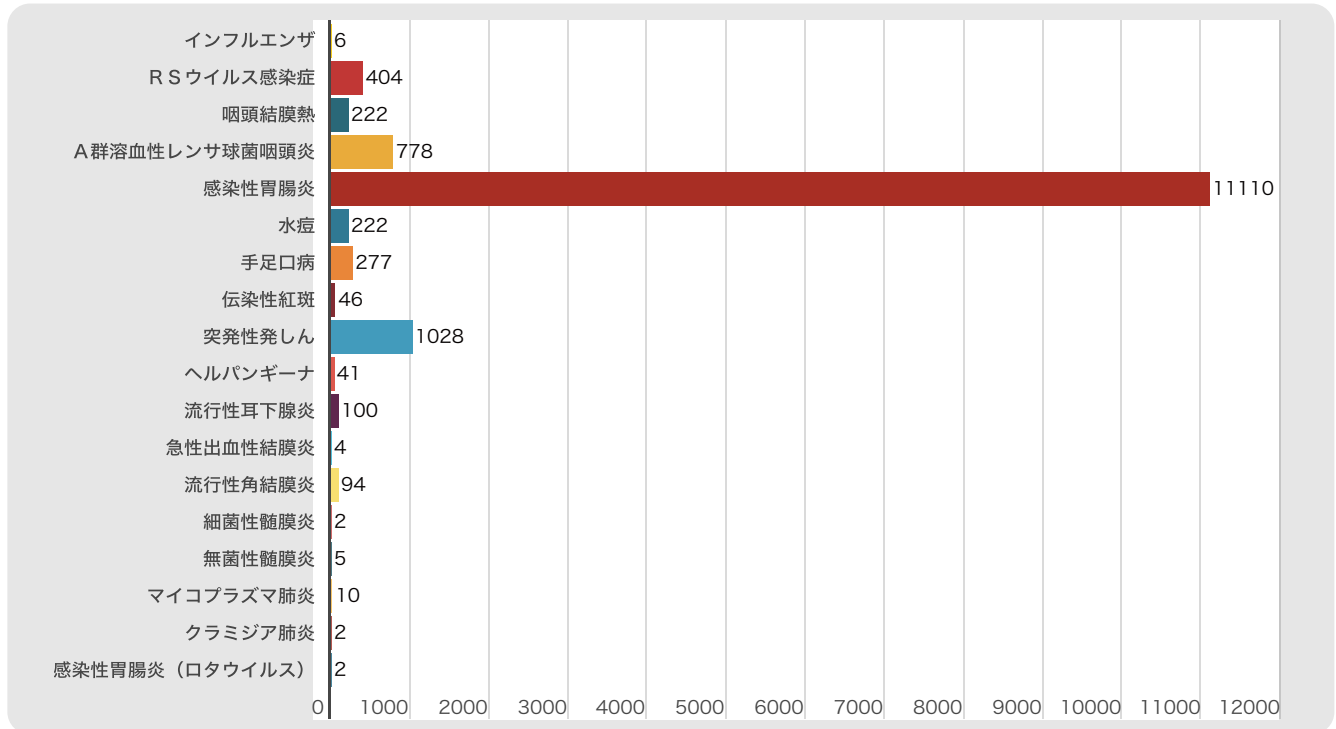


国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査 週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

感染性胃腸炎3週連続増、1万超に



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

4月11～17日は定点把握疾患のうち感染性胃腸炎の報告数が最も多く、1万1,110例であった。続いて突発性発疹が1,028例、A群溶連球菌咽頭炎が778例の順であった。感染性胃腸炎は3週連続増加し、第11週以来の1万例超となった。例年は夏季に向けて減少傾向が見られるが、今シーズンはどうなるだろうか。A群溶連球菌咽頭炎は5週連続で鳥取県の定点報告数(2.00)が突出している。同県では昨年第27週(7月5～11日)に定点報告数が4.37と4を超えたことから7月14日付でA群溶連球菌咽頭炎の警報を发出(8月4日解除)しており、今後の動向が注目される。

※2021年同週の上位3位は、感染性胃腸炎1万180例、RSウイルス感染症3,528例、A群溶連球菌咽頭炎2,151例

●**感染性胃腸炎**：前週(9,170例)から1,940例増加した。報告数が多かったのは前週に引き続き、東京都1,169例、神奈川県759例、福岡県677例の順であった。定点当たりの報告数(3.54)は、富山県が7.55、大分県が6.81、島根県が6.26、山形県が6.24、宮崎県が5.89、愛媛県が5.67、福岡県が5.64、石川県が5.45、群馬県が5.17、熊本県が5.16、山口県が5.07、鳥取県が5.00と続いた。

●**突発性発疹**：前週(918例)から110例増加した。報告数が多かったのは、東京都が97例、福岡県が84例、神奈川県が66例の順であった。定点当たりの報告数(0.33)は、佐賀県が0.87、福岡県が0.70、宮崎県が0.64、熊本県が0.56、山形県が0.55、高知県が0.54、愛媛県が0.53、岩手県が0.50と続いた。

●**A群溶連球菌咽頭炎**：前週(658例)から120例増加した。報告数が多かったのは、愛知県73例、福岡県69例、北海道63例の順であった。定点当たりの報告数(0.25)は5週連続で鳥取県が2.00と突出し、以降は新潟県が0.88、徳島県が0.70、福岡県が0.58、山口県が0.56と続いた。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)情報

厚生労働省が公表している「国内発生状況」によると、4月25日の新規陽性者数は2万4,778例であった。